

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602074
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 野中つつじ苑
所在地	福岡県久留米市野中町771-1 (電話) 0942-39-2700

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 6月 25日
評価確定日	H21年 8月 6日

【情報提供票より】 (平成21年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	23 人 常勤 14人, 非常勤 9人, 常勤換算 16.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3 階建ての ~ 2・3 階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年6月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都内科・内藤病院・新古賀病院・毛利歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、バス通りから近い住宅密集地にある。以前、学生寮だった3階建てをリフォームし、1階は小規模多機能型居宅介護事業所、2階・3階が2ユニットの事業所となっている。近隣には文化センター、公園、温泉がある。運営者は事業所の立地条件を考慮し、屋外に出る機会を多くするよう心がけている。転倒防止にフラミンゴ体操等のリハビリに力をいれ、また、昼間はフロアでのレクリエーションを積極的に行うことで、利用者の快眠につなげている。職員着用の明るいエプロンは、各自のネームを刺繍で施し、責任をもってケアを行うことを意識している。全職員は、利用者と共に、学び支えあう関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、改善シートを作成し「鍵をかけない工夫」はベランダを開放する等し、評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は、自己評価の意義・目的を理解している。自己評価は全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員の要望で、事業所の看板を設置したり、近隣に災害時の避難場所を確保する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族来訪時や運営推進会議で、積極的に意見や不満等を聴取し、設備の改修等、家族からの意見を運営に反映させている。第三者相談窓口については重要事項説明書に明記し、玄関にも掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や運営推進会議を通じて、地域清掃の当番や祭り、公民館行事、敬老会への参加、近所の幼稚園への訪問等、地域と交流することに努めている。また、大学生・地域のボランティアを受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は運営者・全職員で再考察し、「地域とふれあい、その人らしい生き方を」と、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼時に理念から具体的なケアについて日々確認しながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や運営推進会議を通じて、地域清掃の当番や祭り、公民館行事、敬老会への参加、近所の幼稚園への訪問等、地域と交流することに努めている。また、大学生・地域のボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、自己評価の意義・目的を理解している。自己評価は全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。前回評価での改善課題について、改善シートを作成し「鍵をかけない工夫」はベランダを開放する等し、評価を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員の要望で、事業所の看板を設置したり、近隣に災害時の避難場所を確保する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、行政担当者と日常的に運営に対する報告、連絡、相談を行政窓口やメールで行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は、外部及び内部研修で、権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会がある。制度に関して家族来訪時に説明し、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。テキストやパンフレットを整備し、研修記録や報告書には職員が確認したサインがある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回、事業所便りを発行している。月1回、手紙や写真を送付または手渡しし、家族来訪時等に、暮らしぶりや健康状態を報告している。緊急時には、電話連絡を行っている。金銭管理については、月1回、家族に原本領収書を手渡し、出納帳を明示して確認のサインをもらっている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時や運営推進会議で、積極的に意見や不満等を聴取し、設備の改修等、家族からの意見を運営に反映させている。第三者相談窓口については重要事項説明書に明記し、玄関にも掲示している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は利用者が馴染みの支援を受けられるよう、離職を必要最小限に抑える努力をし、職員が離職した場合は、十分に引き継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、利用者主体に人員配置を行い、各ユニットの職員同士の協力体制を整えている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者及び管理者は、職員の採用にあたっては介護への思いを大事にしており、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。働きながら社会参加や自己実現ができるよう環境づくりに配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人代表者及び管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員は人権に関する内部・外部研修に参加している。テキスト、パンフレットを整備し、研修記録、報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員の資格取得を推進し、日常的に学ぶ事ができるように内部・外部研修を受ける機会を設けている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の同業者ネットワークに加入し、管理者や職員が勉強会に参加している。また、地域の同業者と電話や訪問で交流し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、職員が自宅や病院訪問を行っている。その後、日帰りや宿泊体験を行い、本人が納得してから利用してもらうよう、家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は職員が寄り添う等し、利用者に安心感を持ってもらうよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が知らない生活の技や知恵を教わったり、料理や日曜大工等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。意思疎通が困難な利用者には、家族等からこれまでの情報を得るようにし、また、生活歴、表情や行動から、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者、家族の思いや意向を聴取し、職員の気付きやアイデアを反映して作成している。本人・家族へ説明し、了承の署名・押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直し、家族へ連絡している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら、本人・家族・医療機関との連絡を密にし、早期退院に向け取り組んでいる。通院送迎については、本人及び家族の状況に応じて、柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望や気持ちを大切にし、今までのかかりつけ医や事業所の協力医の訪問診療を支援している。情報の伝達方法については、家族等と話し合い、合意している。24時間適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針があり、利用時に家族等へ説明している。利用者や家族等の意向を大切にしながら、本人・家族・かかりつけ医・協力医・職員で話し合い、合意を図り、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関り方について管理者等が点検し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。個人情報の取り扱いについては、内部・外部研修を行い、職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、帰宅願望の人には近隣をゆっくり散歩する等、その日その時の利用者の気持ちを大切にし、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。職員は、利用者と楽しく会話しつつ見守りと介助をさり気なく行い、利用者と同じものを同じテーブルで食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否の人には、時間や人を代え、タイミングを計って支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者のできそうなことを把握し、食材の皮剥き・洗濯物たたみ・椅子の修理・梅干作りや、裁縫・活け花・将棋等、役割や楽しみごと、気晴らしを含めて一人ひとりに支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や体調に配慮して、散歩、買い物、外食や季節ごとの花見等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室は施錠していない。立地条件で玄関は施錠しているが、家族への説明を行い、同意を得ている。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、ベランダの出入り口は開錠して、鍵をかけないケアに配慮している。また、職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを整備している。年2回、消防署の協力による避難訓練・避難経路の確認・連絡方法・消火器の使用方法等を実施し、地域住民の参加協力を得ている。また、全職員は救命講習を受講している。非常用食料・飲料水・備品を整備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は、利用者の嗜好等に配慮して職員が作成し、栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには随所に季節の花を飾り、利用者のレクリエーション用に童謡・唱歌の手書き歌詞を貼る等して、家庭的雰囲気に配慮している。採光はカーテンで調節を行い、職員の声やテレビの音量に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのテレビ・ソファ・椅子・整理箱・ぬいぐるみ、時計等が持ち込まれ、家族写真が壁に飾られる等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。